

# 中学校 社会科のしおり

2018年度 **2** 学期号



インド チェンナイ中央駅付近のようす (取材レポートは裏表紙)



注目  
記事

## どうなる？新学習指導要領 第2回

- 社会科はこう変わる **公民**
- キーワード解説「主体的・対話的で深い学び」

教授用資料

帝国書院

帝国書院撮影の  
写真はこちらから!!

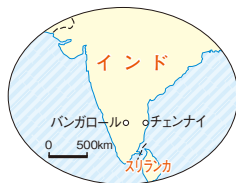




## 取材レポート

### 南インドを取材して

帝国書院取材班



### チェンナイ旧市街のようすと家庭の料理

464万の人口をもつチェンナイは南インドの東岸に位置する都市で、かつてはマドラスとよばれたイギリスの植民地支配の拠点だった。表紙写真のチェンナイ中央駅付近は、当時の建物が残るにぎやかな旧市街地である。チェンナイの旧市街地には、紙製品、布製品など商品ごとに区域が分かれた活気に満ちたバザールがある。迷路のように細い路地を進むと、両側にはさまざまな店が連なり、なかには道ばたに野菜などを並べただけのものもあった（写真①）。

今回の取材では、チェンナイ郊外に住む家族を訪問し、夕食をつくるようすを見せていただいた（写真②）。普段の夕食は夜9時ごろから始まるが、ほとんどが手づくりなので、したくには手間と時間がかかる。このときつくっていたのはカレー、ドーサ、カレー味のめんなどだ。ドーサは薄焼きのクレープのような南インドの料理である。米や豆、ココナッツオイルを加えてミキサーにかけ、それをねかせて発酵させた白いペーストをフライパンに薄くのばし、オイルをかけながら焼きあげる。ドーサはパンのようにカレーに添えるが、南インドでは米も広く食べられている。焼きたてのドーサは香ばしく、カレーによく合っておいしかった。

### さかんなICT産業と映画産業

チェンナイから西へ約300kmに位置するバンガロールは、インドのICT産業の中心地である。私たちはインド科学大学スーパーコンピュータ研究センター（SERC）のGovinda教授にスーパーコンピュータを案内していただいた（写真③）。コンピュータは「サハッスラ（ヒンドゥー語で1000）」という名前で、2015年から稼働を始めた。南インドに大きな被害をもたらすサイクロンの進路などの気象予測、津波被害や地球温暖化のシミュレーション、航空機設計のための航空力学などのデータの計算に使われている。このコンピュータを稼働させ、過熱しないよう冷却するために膨大な電力を使用しており、1か月の電気代は300万ルピー（日本円で約500万円）かかるという。

インドでは映画は最大の娯楽で、年間制作本数、観客数ともに世界一をほこる。多言語国家であることを反映して、主要な言語ごとに制作されている。バンガロールではタミル語の映画館を見学した（写真④）。古びた庶民向けの映画館の場内は、薄暗く昭和の日本を思わせたが、平日の昼にもかかわらず、多くの観客が来ていた。

（写真：帝国書院 2017年9月撮影）

